

手術室この一年

手術室看護科長 鈴木多恵子

平成16年の手術室の年間目標を、次のように掲げ活動を行いました。

「安全で安心して手術を受けられる体制を整える」

＊手術室の特殊性を理解し、清潔・不潔の認識をする

＊声だし・指さし・複数で確認し医療事故防止に努める

＊チームのコミュニケーションを良くし協調性を養う

目標に対しての評価は、一年間大きな事故もなくスタッフ間の連携協力があり、業務が遂行できたと考えます。しかし、ヒヤリハット報告は、何件かありました。確認したつもりや思い込みなど、十分な確認を怠ったり、薬液の落下破損などがあり、今後も継続して、事故防止に努めていこうと思います。

人事については、1月の異動がから始まり、退職で去った職員が3名、勤務異動された職員3名、新しく手術室の仲間になった職員が5名と、以前にはない3分の1以上の交替で、手術室としての機能を果たすことが出来るのだろうか、管理する自分も不安でありましたが、そこで業務するスタッフは、私以上に不安と大変な苦労があったことは、言うまでもありません。その為当院の看護体制である、固定チームナーシングを導入する事も出来ず、12月にやっと全員が当番に入ったことで、平成17年には固定チーム制を導入していこうと、考えています。

看護研究については、従来から行われている手術時の手洗い方法に着目し、新たな手洗い方法を、

試行的に導入しました。ブラシ使用する事で、手荒れや皮膚炎を起こすスタッフもいて、手洗い方法の見直しや、それに基づいた方法で、スタッフが統一した手洗いを実施する事が、出来るようになったのは、有効であったと考えます。

勉強会については定例化できず、麻酔科の先生のご協力で、分離肺換気についての講義をしていただいたのと、朝のミーティング時に何度か、緊急を要する重篤な心電図の小テストを行っていただき、スタッフ全員がどんな波形が出現したら、緊急対応しなければならないか理解し、再認識をしました。

今年は病院医療機能評価を再受審すると言う、大イベントがあり、手術室も何年間の大掃除を、一度に行っただけととてもきれいになりました。又、普段あまり見直しを行っていなかった、手術室の管理基準の見直しを行いました。他の施設の情報いただき、当院独自の良い基準が出来たと思います。この様に見直しを行うことは、業務に対する振り返りができる機会になり、又、マニュアルがあっても使用されない、守れないマニュアルにならないように、スタッフへ周知し、活用していこうと思います。

平成16年は、自分自身が手術室の中で何を、どのように取り組んでいくのか、役割を確認する年でありました。今後は詰所会議や日々の業務の中で、自分の看護観や考えを、より理解しやすくスタッフに伝達し、目的を共有しながら、「安全で安心して手術を受けられる体制を整える」環境づくりを行って、質の高い手術室の看護を目指していこうと思います。

科別手術件数

科	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
外科	21	18	27	28	21	17	26	25	30	22	24	22	281
胸部外科	22	19	24	26	16	19	10	17	25	15	18	18	229
脳外科	17	14	8	18	5	11	7	5	14	6	10	13	128
整形外科	34	39	53	38	28	44	47	33	32	28	30	28	434
泌尿器科	29	31	36	35	21	23	35	27	16	12	31	20	316
耳鼻科	12	8	18	13	13	20	14	10	11	14	12	18	163
眼科	15	20	21	18	18	19	26	24	13	26	20	22	242
産婦人科	25	21	21	30	25	30	25	26	27	26	23	35	314
皮膚科	10	14	15	10	16	13	13	13	10	15	16	15	160
循環内科	1	4	3	0	0	0		0	0	0	0	0	8
麻酔科	3	2	4	0	2	2	2	4	3	3	2	3	30
精神科	1	1						1	7	1	8		19
合計	190	191	230	216	165	198	205	185	188	168	194	194	2324

平成16年手術件数内訳(件)

手術分類	件数	割合
定期手術	1541	66%
臨時手術	642	28%
呼び出し手術	141	6%

麻酔症例件数 1416件 61%
 延長手術件数 322件 14%
 一日平均件数 9.5件